ひと

戊辰戦争の知られざる一面に光を当てた仏語教師

目黒（めぐろ）　安子（やすこ）さん

戊辰戦争で「朝敵」だった仙台藩の若者たちは明治の動乱期をどう生きたのか。3年前に急死した夫・目黒士門氏と、旧仙台藩士の夫の祖父が残した文章を読み解き『戊辰戦争後の青年武士とキリスト教』（**4面に記事**）という本にまとめ、世に出した。

「あまり知られていない史実なんです」。大阪の実家で祖父の遺文を発見し、自らのルーツ解明に取り組んでいた夫の遺志を引き継いだ。

仙台に生まれ、東北大学文学部でフランス文学を学んだ。夫とは大学の先輩後輩で、ともにフランス語学者。岩手大などで非常勤講師をしていたが、フランス語の先生にと請われて、1982年、岩手県久慈市にあるアレン短期大学（後にアレン国際短期大）へ赴任した。北岩手リアス海岸に面する土地。当時、盛岡から北上山地を越えて車で時に4時間。「簡単に引き受けたけど大変なところに来てしまった」と最初はため息。

男女共学の全寮制。全国から集まった学生の中には先生とまともに話したこともない子どもたちもいた。相談にのっているうちに「何となく離れられなくなった」と笑う。経営難から閉校に追い込まれた時は学長として、学校法人の理事長として文部省などとの交渉に奔走。2005年、最後の卒業生を送り出し退職した。

アレン国際短大は、困窮する岩手の農村を救済しようと戦前に久慈に移住したアメリカ人宣教師タマシン・アレンが、1970年に設立した。

「どんな人物だったのだろう」と、学校に残っていた関係資料を集め『みちのくの道の先』（教文館）というミス・アレンの生涯を描いた本を2012年に出版した。

20代で洗礼を受けたカトリック信者。今、西郷隆盛が残した「敬天愛人」という言葉が気に掛かる。天を敬い、人を愛する。キリストの言葉と相通じるものがあるのか。「今の日本の教育には、全年齢をつらぬく理念があってもいいのではないか。天を敬い畏れる心を失ってはならない」と思う。

1男2女を育てた。若さと元気の秘密は?と聞くと「鏡を見ない限り天下泰平」との答えが返ってきた。月2回の「みんなでフランス語を読もう」会で、フランス語をどうしたら日本語らしく訳すことができるか知恵を絞っている。鎌倉・大町在住。83歳。

（文・写真　三浦準司）

図書館をより身近なものに

図書館とともだち・鎌倉

鎌倉には中央図書館をはじめ大船、玉縄、深沢、腰越の4地域図書館がある。図書館の賢い利用法、付き合い方を求めて活動する「図書館とともだち・鎌倉」の和田安弘代表にうかがった。

図書館と賢く付き合おう

—〝鎌倉文士〟という呼称があるように鎌倉には多くの文学関係者が住んでいましたし今も住んでいますが、その鎌倉に図書館ができたのはいつ頃のことでしょうか。

1911年（明治44）です。現在の第一小学校（当時は鎌倉小学校）の敷地内に独立した建物として鎌倉町立図書館が誕生しました。この図書館の設立には多くの人たちが寄付を寄せたようですが、中でも東郷慎十郎という方が当時のお金で1千円と1千冊の図書を寄付して建てられました。この方は教育者ではないが教育熱心な方で、鎌倉の街には図書館が必要だと思い多額のお金と自分の蔵書を寄付されたのだと思います。町が自ら造ろうとしても日露戦争後で財政が厳しかったのです。

あおぞら図書館

—108年前に個人の寄付を基にして図書館が建てられたということが鎌倉らしいと思われますが、他の自治体と比べては。

現存する神奈川県内の図書館の中では、鎌倉の図書館が一番歴史が古いです。

大佛亭にて読書会

—図書館のその後は。

最初の建物は関東大震災で倒壊してしまいました。ですから現在私たちが目にする建物は二代目で、1936年（昭和11年）に再建されたものです。この時の建設費も間島弟彦という方の遺志を継いだ愛子夫人の寄付が元となっています。鎌倉の図書館は地元の方の寄付で作られ、市民に支えられて営まれてきました。

貴重資料見学会

図書館大好き…が集いに発展

—そもそも私たちにとって図書館とは。

現代社会で人が一人前になるには教育にたくさんの時間をかけなければいけません。社会の仕組みや約束事、生きていくうえでの知識や技術を得るためには年数がかかります。学校を卒業してもそれで終わりではない。仕事についてからでも学ばなければいけませんし、一人の人間として生きていくためにいろいろなことを知ったり学んだりしないといけない。図書館は、どこに住んでいても身近にあり、全ての人に開かれていて全ての人が利用できる施設としてあり、そこで色々な資料や情報を無料で入手できる。そのような意味で学びのセーフティネットといえます。

—図書館の長い歴史の中で貴会が生まれたきっかけは。

図書館をよく利用していたお母さん方が何かのきっかけで知り合って「図書館のことをもっと知りたいね」「図書館ともっと親しくなりたいね」という思いで最初は7人のお母さんで会を創ろうということになったと聞いています。

—それはいつですか。

1998年1月です。昨年発足20周年を迎えました。

—「図書館とともだち」という会名の意図したところは。

子どもでも親しめるやさしい感じの会名がいいね、ということでこの名称になりました。活動をするなかで、図書館と友だちなのだから単に図書館を応援する、協力するというだけではなく友だちとして「ここはこうあってほしい」とか図書館をより良くするために図書館にとって耳の痛いことも言わないといけないね、ということです。対等の関係としての友人関係ということです。

メニューいろいろ「とも」の活動

—具体的活動は。

◎勉強会

最近では「図書館のビジョン」をテーマに勉強会をしています。図書館の将来像が必要と考えて、図書館のビジョンを作ってほしいという陳情をしました。それを受けて図書館はビジョン作りをしていますが、自分たちも自らが考えるビジョンを作ろうという学習会です。

◎イベント

昨年は、5月に旧図書館の保存運動をやったときにお世話になった吉田鋼市先生をお招きして「鎌倉近代建築の歴史散歩」というテーマで講演していただきました。11月には「映画と本と図書館とin鎌倉」という映画会を川喜多映画記念館と共催で開きました。

2月3日午後2時、中央図書館3階多目的室で「旧鎌倉図書館の現状とこれからを考えるつどい」を開きます。講師は松本高広さん（松本社寺建設棟梁）です。申込は阿曽さんFAX0467・45・5731

◎読書会

隔月に読む本を2冊ぐらい決めて、その本について読後に語り合おうという会です。直近では昨年12月に『銀河鉄道の父』『日々是好日』などの本でした。次回は2月15日午前10時、NPOセンター鎌倉で『ナガサキの郵便配達』『科学者はなぜ神を信じるのか』をテーマに開催します。非会員の方も参加できます。問い合わせは三浦さん☎0467・25・2659へ。

◎おはなしひこうせん

子どもの本に興味があってお話会の活動をしているお母さん方がとも（鎌倉ともだちの略称）の会の中で集まって始まった活動です。小学校とか色々な場所へ出向いてお話をするので飛行船に乗ってお話を届けるというイメージで名付けられました。毎月第三木曜日に福祉センターで勉強会を開いています。1月は「おもち」がテーマの絵本や昔話を持ち寄りました。問い合わせは黒瀬さん（文末参照）へ。

おはなしひこうせん勉強会

—とも朗読会は。

2013年に発足した会です。発表会は鎌倉芸術館や保育園で定期的にやっています。

—20周年記念誌の内容は。

図書館を利用している人たちが図書館に望んでいることを知ったうえで「とも」のビジョンを纏めようということで、いろいろな人たちの図書館体験や図書館に望むことを募ったところ50人ぐらいの人が原稿を寄せてくれました。それと「とも」の20年の活動を振り返り、それを踏まえてビジョンを掲載する予定です。

—これからの活動は。

中央図書館の3階に近代史資料室がありますが、いまだ市民に公開されていません。貴重な資料をたくさん持っていますが、市民が閲覧できる形になっていません。

また、いろいろな機関と連携し市民に情報を提供できるようなシステムを作れないかと思います。具体的には文学館や国宝館、市文化財課など色々なところと連携して何かできるのではと考えています。

昨年「身近な図書館作りプロジェクト」を行いましたが、図書館は身近にあるのが大切です。生活行動範囲の中に図書館がある、そのためにいまは5つ図書館がありますが、それでも図書館に行くのが不便だという地域がまだある。そういうところに図書館のサービスポイントを何らかの形で作るべきではないでしょうか。長期的にはこういう課題にも取り組んでいきたいと考えています。

—現在の会員数は。

約130名です。

—入会したい人は。

黒瀬さんに連絡を。

—どうもありがとうございました。

図書館とともだち・鎌倉　鎌倉市御成町18—10　NPOセンター鎌倉　黒瀬方☎0467・22・8545

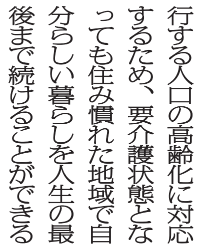
健康百科通信 ⑮

地域包括ケアシステムと二つのリング

医学博士　地域医療連携室室長　浅川　雅透

厚生労働省は現在、過去に例をみないスピードで進行する人口の高齢化に対応するため、要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、「地域包括ケアシステム」の構築を推進しています。そのためには、地域の多職種の方々が緊密に連携をとり、医療、看護、介護、生活支援の一体化したサービスの提供が必要であると言われています。

当院においても、鎌倉市の「地域包括ケアシステム」構想に基づき、2015年4月から地域包括ケア病棟の導入、運営を進めるとともに、「鎌倉西地区地域包括ケア研究会」という連携の会を立ち上げ、医師だけでなく、訪問看護師、包括支援センター、社会福祉士、ケアマネージャー、民生委員の皆様がそれぞれ苦労されているケースについて話し合い、顔の見える関係づくりを強化し、多職種連携による「地域で支える医療の実現」を目指しています。



この研究会で、深沢中央診療所の宮下明先生に意見を伺い、鎌倉市の多職種連携を象徴するシンボルが誕生しました。それが「かまくらリング」です。

このリングには込められた思いがあります。「患者さんの問題に職種の壁を越え平等な立場で話し合い、連携を深め、解決に導く。そして医療の弱者たる高齢者のためのセーフティーネットを構築する」ということです。この連携と連携の担い手がなければ、行き場のない高齢者が街にあふれ、生活も立ち行かなくなってしまいます。さらに連携を深め、市の地域包括システム構築のために貢献していきたいと考えています。

湘南記念病院副院長
鎌倉市笛田2—2—60
☎0467・32・3456

いざっ!! 鎌倉てらこや ⑭

「また、会いたい」を追い求める

鎌倉てらこや事務局長　小木曽　駿

年始の慌ただしさも落ち着きを見せ始めたころ、とある兄弟が初めて「てらハウス」にやってきた。参加のきっかけを保護者に伺ったところ、引っ越してきたばかりで、まだ新生活に馴染みきっていないとのことだった。

兄弟はやはり緊張していた。特に弟は話しかけてもぽつりぽつりと返事をするのがやっと。しかし、話をしているうちに「壁は落書き放題なんだね！何か描いてみたい！」と次第に楽しみ方を見つけていった。

私も小学2年生の時に鎌倉に引っ越してきたが、自分の環境が根こそぎ変化してしまう転校は大きな不安を伴った。私たち大人が様々な背景を抱えながら生きている以上に、子どもたちは彼らなりの悩みやストレスを抱きながら日々を生き抜いている。だからこそ、塾や習い事で忙しい現代の子どもたちにとって家庭や学校とはまた異なる形で自分自身を受け止めてもらえる「第三の居場所」の重要性は近年、一段と増しているのではないだろうか。

てらハウスへどうぞ＝平日の放課後と土曜オープン

友だちと喧嘩をしてしまった。成績が思ったように上がらない…。悩みを抱えたときに思いっきり遊んで発散したり、誰かに相談したり、何をせずともそこにいるだけでほっと一息つける場所で「てらこや」はありたい。「いつ帰ってきても受け止めてくれる人がいる」という確信は、万が一、子どもたちが困難と直面したときに、自ら現実と立ち向かおうとする勇気をわずかばかりかもしれないが後押しできると考えている。

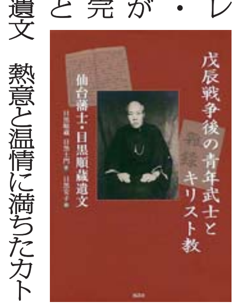
初参加の兄弟は、活動時間が終わると、「ばいばい！またね！」と言って、名残惜しそうに家路についた。また遊びに来てくれるという。これから同じ時間を共にしていく中で、自分の悩みを打ち明けてしまえるような、特別な存在を見つけてもらえたらと願っている。

どれだけ遊び尽くしても別れの時間に浮かべる、まだまだ遊び足りないという子どもたちの表情は、他の活動でも同じだ。より多くの子どもたちに、「また会いたい」と思ってもらえる関わりを求めて、2019年も様々な活動を展開していきたい。

鎌倉てらこや事務局
☎0467・84・9746
（平日13〜17時）
http://kamakura-terakoya.net/

『戊辰戦争後の青年武士とキリスト教—仙台藩士・目黒順蔵遺文』

目黒順蔵　目黒士門著　目黒安子編



鎌倉市在住の元アレン国際短期大学教授・学長の目黒安子さんが亡き夫・士門氏が未完結のまま遺した原稿と資料をもとに「順蔵遺文集」を出版した。

長年空き家にしていた亡父の書斎から士門氏が見つけた祖父の遺稿。それは戊辰戦争に敗北した仙台藩の藩士だった祖父目黒順蔵が、明治維新という未曽有の転換期に江戸へ出て出逢ったキリスト教と西洋医学を両輪に破壊と改革の時代を力強く駆け抜けた青春の記録であった。

築地の外国人居留地に開かれた食住無料のフランス語塾に活路を求めた順蔵は、フランス革命を潜り抜けた宣教師たちの熱意と温情に満ちたカトリックの教えの中に藩の瓦解で失った尽くすべき「主」の姿を見い出す。

その後葉山に初めて置かれた小学校の校長として赴任するも、実家で医業を継ぐ長兄の死を機に西洋医学を習得。医師として地域医療に力を注いでいく。

幕藩体制から明治へと移りゆく混迷の時代の中、学究の精神と博愛の心で新時代の胎動の種を蒔いた青年士族の実録。

2800円（税別）風濤社☎03・3813・3421

早春の鎌倉で特別参拝　僧侶と巡る十三仏巡拝

梅の香り漂う早春の鎌倉の寺社で2月4日〜3月19日の期間中、人数限定の「寺社特別参拝」と、「僧侶と巡る鎌倉十三仏巡拝」が実施される＝**写真**。主催は鎌倉十三仏詣実行委員会。

「寺社特別参拝」は各社寺によって内容が異なるが、本堂特別参拝、或いは収蔵庫・庭園などの特別公開、講話などが行われる。1カ寺千円。予め応募が必要なものと当日受付のものがある。

「僧侶と巡る鎌倉十三仏」は、僧侶と共に各寺で般若心経を唱え、御朱印を受けながら十三仏（寺）を2日間に分けて巡る。1日11，000円（昼食付）。

問い合わせ同実行委☎0467・40・3044

心のふる里を行く ⑱

人類の存続を支える智恵

池田雅之

哲学者の梅原猛先生が、1月12日に93歳で亡くなられた。私自身が古稀を過ぎたこともあろう、恩師と慕う先生方が、次々と鬼籍に入られてゆく。

比較文化の研究方法で思い悩んでいた私に、決定的な方向性を示してくれたのは、梅原先生の著作であった。特に「日本人のあの世観」（中公文庫）と「日本の深層」（集英社文庫）は、日本文化の根っこ、源流でもあるアイヌ文化や縄文文化に眼を開かせてくれた。

多くの学恩を受けながらも、私は梅原先生に直接お会いしたことがない。しかし、この40年の間、手紙と電話のやり取りは何度かさせて頂いた。「ラフカディオ・ハーン著作集」（恒文社）のための推薦文や父雅雄の遺著「野見宿禰と大和出雲—日本相撲史の源流を探る」（彩流社）の序文を書いて頂いたことがある。相撲好きの先生が、古代史の一コマとして関心を寄せて下さったのだ。

梅原猛氏＝『日本思想の古層』川勝平太著（藤原書店）より

電話から聴こえてくる梅原先生の声は、天上から響いてくるようで、おおらかで優しくありながらも、予言者風の不思議な声音であった。先生の文章を改めて読んでみると、あの独特な先生の声が、私の耳に届いてくるようである。

梅原先生の最期のお仕事は、西洋哲学を批判した「人類哲学序説」（岩波新書）と川勝平太氏と存分に語り合った「日本思想の古層」（岩波新書）であろう。後者の対談集から響き聴こえてくる声は、先生の最期のメッセージと思われる。人間中心主義が行き過ぎた西洋思想を批判しながら、自然と共生し、平和に生きていくための智恵を提示している。

その人類が生き延びるための智恵は、天台宗本覚思想の「草木国土悉皆成仏」にあるという。川勝氏は「このテーゼは梅原哲学の核心であり、日本列島に根をもつ思想であり、世界に通用する理念でもある」と述べている。梅原先生はそうした思想に帰らないと、人類の存続と文明の発展は危ういと警告を発しているのである。

梅原猛先生は、人類平和のための究極の思想を語り尽して、旅立たれたのである。ご冥福をお祈りしたい。

（早稲田大学名誉教授）
鎌倉てらこや顧問

いざ鎌倉！成功への出陣 ⑭

☆鎌倉市倫理法人会 通信

歴史と伝統のある鎌倉を梁山泊に！

ゴーン氏に学ぶ経営倫理

日産ゴーン氏の会社私物化が大きな問題となっています。法的に問題なければ、何をしても許されるという感覚が彼を支えているような気がします。

日産の立て直しの際、従業員2・1万人の首切り、営々と築いてきた虎の子の工場5カ所の閉鎖・売却、日産社員の天下り先である部品会社の大部分の株を売却という荒業で、帳簿上の大きな利益を産みだし、日産をV字回復させたと、世間からは高い評価を受けました。

新年のモーンニングセミナー

多くの社員の思いを踏みにじり、彼らの人生のはしごを外したこの手法は、日本人には決してできなかった手法でしょう。挙句の果て、日本の自動車会社では考えられない見かけの高利益を得ました。また、彼は自分の収入向上にも非常に熱心で、会社の利益が自分の収入に直接結びつくとして、社員の心を踏みにじってでも利益第一主義に走ったのでしょう。

欧米では、会社の将来性や社員のモチベーションの向上より、自分の業績に拘る経営者が多いように見受けます。そのような経営者の元では、優秀な技術者が会社を去り、将来の開発競争に負けてしまうことになります。GMの破綻も売れる車の開発競争に負けたからと言えるでしょう。

一方、55年ほど前に、石川島や東芝の経営危機を立ち直らせた土光氏は、社長車を使わず、公共交通機関で通勤し、朝食のおかずは目刺しとみそ汁という質素な生活でした。また、JALの再建にあたり、稲森氏は無給で社長職を引き受け、立派に立ち直らせました。

会社の経営者は、土光氏や稲森氏のような崇高な倫理感を持って欲しいものです。そして、社員、国民の幸せを第一として経営すれば、利益に固執しなくても、社員やお客様からも信頼され、その結果、経営は自ずと順調となり、適正な利益を産むというものです。

倫理法人会には、実際に組織を活性化させ、事業を繁栄に導いてきた多くの経営者が会員として名を連ねています。入会して彼らの実話を聴いてみませんか?

会費は月1万円。

（文責・平松健男）

鎌倉市倫理法人会事務局
☎045・315・2433
FAX045・315・2434

終の棲み家を考える ㊽　内装について

家を建てるとき間取りが決まり内装をどの様にしたらいいか考えます。建売やハウスメーカーの建てる家は殆んどビニールクロスと合板で仕上げられます。現在はホルムアルデヒトを発散するような危険な材料は出廻っておりませんが、素材は塩化ビニールです。和室でもじゅらくに似せた物を張ったりしています。天井にも板に似せた柄の物を張っていて家の人も気がつかない事もあります。

全体予算の事もありますので一概に言えませんが、本物の板や左官仕上げされた漆喰や和紙等なんとも言えない味わいがあります。本物から発せられるエネルギーは人の心に伝わり、体を癒してくれます。家は雨風を防ぐ為の道具から、今は人の体や心を休め安心して幸せな気持ちにしてくれるものが求められています。塩化ビニール・プラスチック・化学ノリで固めた家からではそれを望むことはできません。

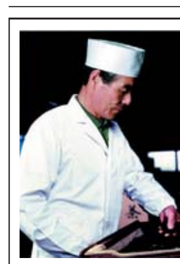
家の内装を考えたとき豪華な照明や高級な家具で飾ることなどしなくても昭和初期に当たり前のように建てられた民家、トトロの住むような家づくりをすれば幸せな気持ちになれるのです。欅・檜・杉・ヒバ等の木材に漆喰・じゅらく・珪藻土等の左官仕上、障子・襖・畳等を近代的に取り入れて幸せになれる家作りをしています。

■日向建設　鎌倉市大船1—15—3
☎0467・47・5454　http://www.hyuuga.co.jp

がんこ職人おすすめのお茶

本場静岡の深むし茶を直送

「おいしくなければご返品を」と自信作



お茶の本場、静岡県藤枝市で創業二百年の歴史を誇る『真茶園』は、お茶の鑑定技術を競う全国大会で優勝経験のある八代目当主が茶葉を厳選し、がんこ職人が手作りで製茶しています。

今回はコクと旨みが自慢の『深むしトロリ出るお茶』（100g 1080円）と、最上級の味わい『深むしまろり茶』（50g 810円）のこだわりの二品に、送料324円（ポスト投函便）を加え、通常2214円を今回、特別価格1380円（税・送料込）でお味見できます。（初めての人限定）

商品到着まで約8日。お支払いは商品到着後同封の振替用紙（郵便局・コンビニ）で。

限定50個となり次第売り切れとなりますので予めご了承ください。お申し込みは、今すぐ電話、FAX、ハガキで。

0120・64・5959（無休・8～20時）
FAX 0120・80・7189（24時間受付）
〒426—0023 静岡県藤枝市茶町1の10の29「真茶園25係」

朝日新聞の購読料は口座振替で
・手数料は一切不要
・手続き簡単
ASA
従業員募集
詳しくは最寄りのASAへお問合せを
・専業従業員
・婦人パート
・学生アルバイト

ゆみ中医漢方クリニック
漢方婦人科
漢方思春期婦人科
漢方不妊治療婦人科
診療時間
完全予約制
午前：9:00～11:30（火～土）
午後：2:00～ 4:30（火・木・土）
住所：逗子市小坪1－18－4
TEL：0467-22-9184
http://www5e.biglobe.ne.jp/~yumicyui/
各種健保扱・自費診療有

訪問診療・往診
医）湘南友和会
さとうクリニック
認知症対応　訪問看護
訪問介護　癌末期管理
在宅看取り　緊急時病院連携
〒247-0061 鎌倉市台5-8-29
TEL 0467-43-5220